

Mt. Victoria Project

ふるたん通史 其の貳 **(2013.9~2015.8)**

NPO法人 ふろんていあタウン工房



2013年9月21日 NPO法人「ふろんていあタウン工房」発起人総会



「ふろんていあタウン工房」は、
郊外の新しいまちづくり・環境づくりで培った
日本のニュータウンの開発技術を活かし、
ミャンマーの辺境(フロンティア)の地での
「山づくり」(山の魅力を高める環境保全活動)と
「まちづくり」(山麓の村の生活を向おこし活動)
を目指しています。

「タウン」は 日本では「まち」ミャンマー語では「山」です

ミャンマー

2014年2月26日 「ふろたん通信」創刊号発行

ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2014年 2月26日 広報センター

No. 1

MT.VICTORIA PROJECT

3月14日 ビクトリア山・現地調査に出発！

□機関紙創刊号です。

昨年3月に設立40周年記念としてマンマー遠征ビクトリア山登山を行った、URワングル同好会がスタート時から発行している機関誌「渡り鳥通信」は、1973年3月20日付の創刊号からの最新号のNo.932(2014.2.13)まで続いています。それに倣って、NPO法人設立を目指していた2月に、最初の現地調査隊のメンバー紹介する機関紙創刊号発行の準備を進めていましたが、予想外の再申請手続き、認証時期が先に延び、頭に“NPO 法人”がつかない「ふろんていあタウン工房」の機関紙「ふろたん通信」創刊号の発行ということになりました。

□調査隊メンバーと今回の現地調査活動

登山口でモタモタしているような感じになってしまいましたが、気を取り直して元気に、現地調査隊を送り出しましょう。3名の少数精鋭部隊です。ふろんていあタウン工房(URワングル同好会)から赤川勉調査隊長。当初から連携活動をお願いしていたNPO法人まちナビ倶楽部からは、二人の大ベテラン、森角武久さんと三宮満雄さんが参加されます。(3.14~3.20)

ビクトリア山の「花と緑の登山道マップ」作成に向けた現地調査と、啓発活動資料として作成中の小冊子「公園の登山道」について国立公園事務所スタッフの方達と意見交換をします。今までナマタン国立公園の植生調査を行ってきた牧野植物園スタッフにもお会いします。帰りのヤンゴンでは、色々と協力頂いている日本マンマー協会の現地事務所も訪問する予定です。

□社行会に、ご参加ください！

- ・日時：3月4日(火) 18:30~21:00
- ・場所：「びるまの豎琴」(渋谷区恵比寿2-8-13 Tel.03-5420-1686)
- ・会費：2,000円 ※出席される方は3/3迄に高田幹事へ連絡を(090-4824-2176)

□「ふろんていあタウン工房」会員メンバー

再申請届出日現在の会員メンバーです。

「正会員」 室井隆良 瀬川基之 安原昭子 浜崎良治 森田忠志 赤川勉 朝倉正浩
高田睦夫 安村孝志 宮本保宏 鶴見隆志(以上発起人メンバー) 山本稔

「賛助会員(個人)」 安田重雄

「賛助会員(団体)」 (株)ピース・イン・ツアー (株)アルテップ (有)プラディ・アソシエイツ

□フロンティアタウンシップ

「URワングル同好会」メンバーを中心に設立した「ふろんていあタウン工房」は、趣旨書に書かれてあるように、郊外の新しいまちづくり・環境づくりで培った日本のニュータウンの開発技術を活かし、ミャンマー国の辺境(フロンティア)の地での「山づくり」(山の魅力を高める環境保全活動)と「まちづくり」(山麓の村の生活を向上させる地域おこし活動)に取り組む団体を目指しています。会員の心得「フロンティアタウンシップ」について書いた本をつくり、入会の際にお渡ししています。



□国内では、まず会員拡大活動

- ①「賛助会員(個人・団体)」の勧誘；山好きの人間に限らず、ニュータウン事業経験者・都市計画コンサルタントなど幅広い方々に声をかけ、ボランティア活動の仲間を集めましょう。
※YESの方には「フロンティアまちづくり読本」を贈呈 NOの方には書籍購入のお願い
- ②「まとめ買い」をお願いできる団体さがし
- ③「賛助会員」で積極的な参画が期待できるメンバーには、漸次「正会員」への移行を要請

□NPO 法人発足に向けた体制づくり

広報センターのバックアップ体制をつくり、機関紙発行等の広報活動を積極的に推進、事務局体制のスタッフ強化も図ります。会員相互の情報交換の定例会を、毎月第3木曜日に恵比寿の「びるまの豎琴」で行います。18時から21時半頃まで必ず誰かがいますので、時間がある方は気軽に顔を出してください。(第3木曜なので「山木会(サンモクカイ)」と名づけました)

□寄付金ありがとうございました。

発起人メンバーの安原さんから「広報活動の費用に」と、3月11日に三回忌を迎える勲さんとの“ご夫婦での寄付金”をいただきました。右の写真は、今回の調査活動資料「公園の登山道」で日本の国立公園紹介として載せている「尾瀬ヶ原(1985)」。ワングルメンバーの中にお二人の姿も見えます。



2014年3月14～20日 ビクトリア山第2次調査

第2次調査は「ふろんていあタウン工房」(NPO法人設立準備室)とNPO法人「まちナビ倶楽部」との合同チーム編成で実施。



現地でJICA草の根調査(2006.9～2009.6)スタッフとの意見交換会を行いました。
安田さん(アース・ウォッチ・ジャパン)・田上さん(牧野植物園)・シェイン・ガイ・ンガイ前公園事務所長

ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2014年 4月 4日 広報センター

No. 2

MT.VICTORIA PROJECT

ビクトリア山第二次現地調査登山報告

3月14～20日に実施したミャンマー遠征「第二次調査登山」、通信第2号は、帰国当日の赤川調査隊長へのハードインタビューです。(聞き手は室井第一次調査隊長)

M どうもお疲れ様でした。皆さん元気に帰国され、まず一安心といったところですよ。一年前にURワンゲル設立40周年記念として行った調査登山の時は、ビクトリア山があるチン州は外国人旅行者の入域を規制していて、山で会った外国人登山者は英国人1パーティーだけでした。今回は規制解除後の登山でしたが、海外からの登山客は増えていましたか？

ビクトリア山登山口にて(

A 結果から申し上げますと3パーティーと出会っています。私達も昨年の第1次調査隊と同様に、3月の乾季にあたるビクトリア山(ミャンマー語でナマタン、地元ではコーホート「神が宿る山」と呼ばれている)に登ることにしました。ニャンウー空港からカンペレまでパジェロ2台で約8時間の道のり、途中のチャウク(石油発掘の町)からカンペレまでが泥状態道路で埃を巻き上げながら進み、後続車は堪ったものではない。乾季のメリットはカンペレまで道路が冠水せずにたどり着けること。今急ピッチで、碎石を敷き並べタールを散布し砂をまく、一連の人力作業が家族総出で行われていて、後2・3年ほどで道路も改善されるので、そうならば雨季をチョイスして、花が豊富な4月から11月のビクトリア山を満喫出来そうです。同じホテルに宿泊した8人組のドイツ人は早朝に公園内をバードウォッチング、我々の登山開始地点(ゲートから10マイル地点)では、別ルート組のイタリア女性とブラジル人ペアと出会った(隣村から登ってきたとのこと)。もう1組の2人パーティーは、登山口より大分下界から登ってきたようである。西洋ではそれなりに知られているのではないかと。日本はこれからといったところでしょう。



ビクトリア山の登山マップづくりを進めるために参考となる日本の登山マップと、日本の公園での登山道整備を子供たちに紹介する小冊子をナマタン国立公園事務所に届けました。



ティン・ミヤ・ソエ公園事務所長と藤川さん(牧野植物園)

2014年6月16日 NPO法人「ふろんていあタウン工房」設立



2014年6月26日 第1回総会開催

情報発信・会員拡大に向け、「広報センター長」と「遠征強化委員長」の2理事を置くことを決定
プロジェクトの推進のため「飯能部会」と「御嶽部会」を設置しました。

「ふろたん通信」No.3から、NPO法人が頭についた通信になりました。

「ふろたん通信」No.4では、第3次調査隊のミッションは「ビクトリア山登山ガイドマップ」製作に向けた現地調査だと呼びかけています。

「ふろたん通信」No.5は、9月27日の「御嶽山噴火」の知らせを聞いたのが「ツーリズムEXPOジャパン」のミャンマー出展コーナーだったことを伝え、ストーリーマップ「御嶽山・ビクトリア山」の表紙を載せています。



NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2014年 6月 20日 広報センター

No. 3

平成26年6月6日「特定非営利活動法人設立認証書」が届きました！

『ふろんていあタウン工房』本格スタート宣言

□ やっと本格スタートです

「UR ワンダーフォーゲル同好会」が、設立40周年記念事業として昨年3月に行った第1次ミャンマー遠征ビクトリア山登山でスタートした「MT.VICTORIA PROJECT」、このプロジェクトを「ワンゲル同好会」から引き継いだ「ふろんていあタウン工房」は、第2次現地調査隊を今年3月に派遣、NPO 法人設立に手間取り「準備室」のまま発行した「ふろたん通信」の創刊号（2014.2.26）で壮行会の案内、帰国報告は第2号(4.4)に掲載しました。

その後再縦覧を経て、6月6日に東京都から設立認証書が届き、法人登記書類を整えて16日（大安吉日）に法務局に提出、**NPO 法人 ふろんていあタウン工房**がやっと本格スタートとなりました。



□ 会員拡大活動 への取り組み

2月の「ふろたん通信」創刊号では、NPO 法人発足に向けた体制づくりとして広報活動を積極的に推進し、まず会員拡大活動に取り組むことを呼びかけました。

「MT.VICTORIA PROJECT」のリーフレットを作成し、「賛助会員（個人・団体）」の勧誘を進めてきましたが、設立を機に皆で「仲間づくり」に一層力を注ぎましょう。

□ 第2次調査隊メンバーの報告会

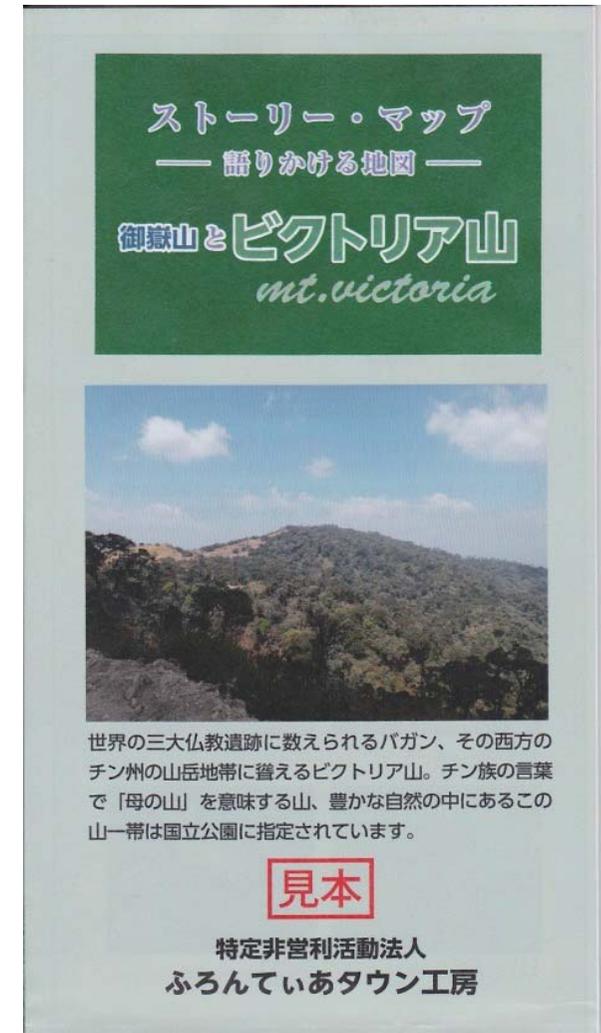
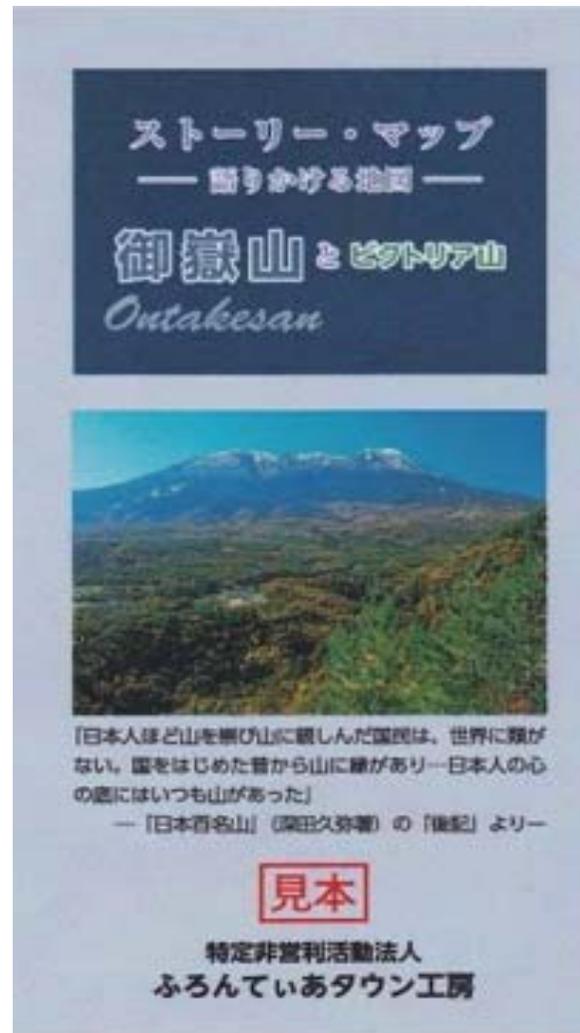
赤川調査隊長からの報告は、帰国当日ハードインタビューとして「通信」第2号でお伝えしましたが、5月22日には、調査隊に参加いただいた森角武久さんと三宮満雄さんからの報

ストーリーマップ ー語りかける地図ー 「御嶽山とビクトリア山」

「御嶽山」と「ビクトリア山」が表裏一体となって、山を愛し大切にしている人たちに語りかける地図です。

二つの山が手を繋ぎ、山麓のまちの友好交流ネットワークを形成したいと考えてます。

「ストーリーマップ」は、そのガイド役です。



2014年12月10日 「ふろタンインタビュー」 スタート

カフェと雑貨「ぼれやあれ」
不思議な店の名前のこと
ミャンマーの珈琲農園を探して
ミンガラバー・ユネスコクラブ



安彦隆さん 小野寺有菜さん

2015年4月20日 平成27年度通常総会開催

総会では

(1) 目的を共有できる団体との協力・連携ネットワークづくり

(2) 持続的な遠征体制の強化

(3) 村おこしを目指した収益事業の取り組みに着手

(4) 「**森林部会**」を新設し「**飯能部会**」「**御嶽部会**」との3部会体制での活動推進 が話し合われ、

その報告を載せた「ふろタン通信」NO.8では、5月にスタートする「ミンガラバー・ユネスコクラブ」から、「コミュニティフォレスト」活動を紹介する案内が届いたことも伝えています。

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろタン通信



2015年 4月 30日 広報センター

No. 8

重点目標「協力・連携ネットワークづくり」を掲げて

ふろタン工房の新年度がスタートしました！

□ふろんていあタウン工房 総会報告

日本列島を春の嵐が駆け抜けた4月20日、平成27年度通常総会が開催されました。

「ふろタン通信」NO.6・NO7で呼びかけていた「目的を共有できるNPO等団体との協力・連携のネットワークづくり」を新年度の重点目標とすることを確認し、I. 積極的な情報発信による会員の拡大に引き続きメンバー全員で取り組むことと、II. 新年度の具体的な活動と実行体制について話し合いました。

実行体制については、新設した「森林部会」を加えた「飯能部会」「御嶽部会」の3部会体制で、☆辺境の地での持続的な遠征・活動体制の確立と☆国内活動での協力・連携ネットワークづくりを進めることとし、海外（ミャンマー）及び国内で、それぞれ森づくりや自然保全活動に取り組んでいる団体の名を具体的にあげながら話し合いました。

また、☆村おこしを目指した収益事業の取り組みに今年度から着手することについても話し合い、登山ガイドマップなど観光みやげ品の試作販売等、今後の収益事業の拡大に向けて積極的に調査・企画し取り組むことにしています。

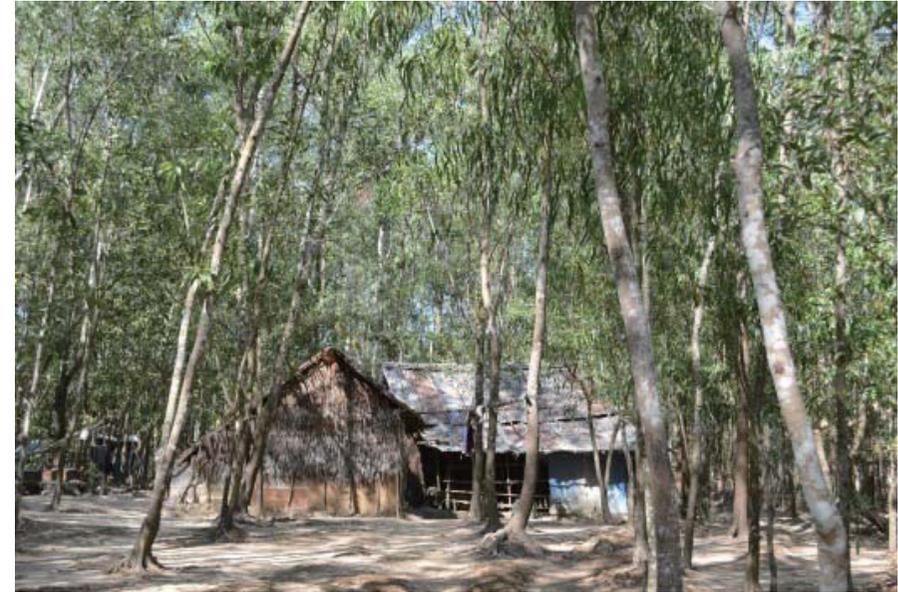
いろいろと話し合いましたが、何といたっても新年度の最重点活動は11月のピクトリア山第3次現地調査隊の派遣、NPO法人設立後最初の調査隊の現地活動が有意義なものとなるよう、その日に向かって全員でバックアップ活動に取り組ましよう。

□NPO法人設立1周年⇒活動報告会+懇親会を開催します

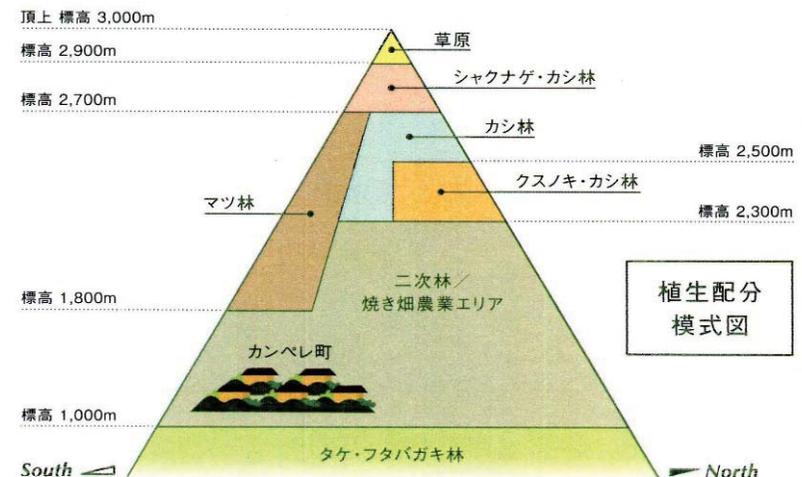
「ふろタン工房」は、6月16日に設立1周年を迎えます。準備期間を含めて約2年間の活動を、賛助会員(個人・団体)の皆様、色々なカタチでご支援・ご協力頂いたサポーターの方々に報告し懇談する会を、記念行事として開催することにいたしました。ただいま準備中です。日時・場所が決まり次第、皆さまにご案内します。多くの方々との楽しい会にしたいと思います。ぜひご参加ください。

コミュニティフォレスト

「ミンガラバー・ユネスコクラブ」のメンバーが、コミュニティフォレストリー制度による森林農法に取り組み、ヤンゴン郊外のモービー郡での植林スタディーツアーを開始しました。



中央林業開発訓練センター演習林



「森林部会」は、ミンガラバー・ユネスコクラブの「コミュニティフォレスト活動」に協力し、「ビクトリア山麓での自然農園」実現を目指します。

2015年4月27日 第2回 「ふろたんインタビュー」

「御嶽山」と「百草丸」

木曾ユネスコ協会と御嶽山登山道整備活動
伝承薬「百草丸」と木曾路の未来



井原正登さん

御嶽山の登山道整備と「木曾丸ごと夢作り活動」

2003年に設立された木曾ユネスコ協会が、2007年から毎年行っている御嶽山の登山道整備活動をはじめ、御嶽山・木曾路の魅力を高めながら地域の一体化・活性化を目指す「木曾丸ごと夢作り活動」は、一里塚跡の復元など色々な取り組みを進め、木曾の地域遺産を未来の子供たちに残して行こうとしています。



「御嶽部会」は、木曾ユネスコ協会の「木曾丸ごと夢作り活動」を学びながら「ピクトリア山とその山麓の村おこし」に活かして行くように取り組みます。

「ふろタン通信」第10号 創立1周年の二つの記念行事報告

NPO法人 ふろんていあタウン工房

ふろタン通信

2015年 8月 17日 広報センター



No. 10

ふろんていあタウン工房創立1周年

二つの記念行事の報告です！

□7月2日～3日「御嶽山慰霊活動」

UR ワンゲル同好会との共催で計画、木曾ユネスコ協会の御嶽山麓登山道整備活動に参加しました。

翌日に企画していた木曾駒ヶ岳登山は、悪天のため宿場町巡りだけになってしまいましたが、ワンゲルの「海い鳥通信」が7月6日付のN0959号で活動報告をしていますので、登山道整備の部分を抜粋して転載します。報告者は、URワンゲル同好会マネージャーの「鶴見御嶽部会長」です。

『悪戦苦闘の笹刈り作業』スタートは、御嶽山の東側からの登山口である黒沢口の6合目にある「中の湯駐車場」。ここから、登山道をふさぐ笹を刈りながら下山して、5合目の「三笠山登山口」を目指しました。作業は、草刈り機を持った1名が先頭をザックリと刈り進み、残りの3名が、カマ、ナタを使って笹を刈り、登山者が歩ける程度の空間を作って降りていくというものでした。このコースは、一般の登山者はあまり歩かないことから、びっしりと笹に覆われていて、登山道がわからなくなっている箇所も多々ありました。筆者は、ナタを使いましたが、最初は笹を刈るコツがつかめず、悪戦苦闘。後半からやっとコツをつかんで、気持ちいいくらいに笹を刈りながら進むことができました。ただし、作業終了時には汗だくで、翌日は、普段使わない筋肉を使ったせいで疲労困憊。

夜は、木曾ユネスコ協会会長で日野製菓の社長さんご紹介で、木曾福島の古い街並みの中にあるお食事処で打ち上げをしました。おいしい料理でした。

登山道での笹刈り作業 木曾ユネスコ協会会長さんと(中央) 黒沢口からの御嶽山



□7月8日 1周年記念活動報告会+懇親会

こちらはワンゲル同好会の協賛で、新宿アイランドタワー17FのUR食堂で開催した懇親パーティー、40周年を超えたワンゲルの歩みから誕生した「ふろタン工房」の話などを交え楽しい時間を過ごしました。

『出席総数25名』普段はあまり顔を合わさない賛助会員の皆さんも参加し、会員19名+入会候補者1名の他、色々とお付き合い頂いている「まちナビ倶楽部」からは森角さん三宮さんと丹羽さん、「ミンガラバー・ユネスコクラブ」からは小泉さんと大野さんに出席いただきました。ワンゲル同好会の海外遠征(20周年のキリマンジャロ・35周年の玉山・40周年のピクトリア山)に唯一人皆勤賞の江頭さんの「乾杯！」でスタート、ピクトリア山登山のビデオなどを流しながら、今まで準備をしてきた「飯能部会」「御嶽部会」「森林部会」の三部会体制での活動推進について、今年度は体制の充実を図りながら試運転し来年度から本格実施することを少し話し合い、あとはひたすら楽しく雑談。最後に今年11月の第3次調査登山に参加する瀬川さん・森下さんの決意表明を聞き、宮本ワンゲル同好会会長の「締め」でお開きとなりました。

『三部会体制での活動推進のお願い』三部会のチーム体制づくりに向けて「Ⅰ.朝倉飯能部会長」「Ⅱ.鶴見御嶽部会長」「Ⅲ.森下森林部会長」から皆さんに、各部会への参加のお願い・勧誘があります。現会員・賛助会員の皆さまにはぜひいすれかに所属いただけますようお願いいたします。三部会の違いは…？ 活動場所でおおまかに分類すると、Ⅰは郊外の山が身近なまちの集落、Ⅱは地方の山村の集落、Ⅲはピクトリア山麓の集落、といったところでしょうか。共通のキーワードは「辺境のタウンづくり」(強制ではありませんが是非ご参加ください。掛け持ち参加・大歓迎！)

□「第3回ふろタンインタビュー」を8月中にホームページにサイトアップの予定です。タイトルはお盆明けらしく(?) 天空の山の「祈りの造形」 中身は見てのお楽しみです！

8月14日現在の会員メンバー

※新入会員

正会員：室井隆良 瀬川基之 安原昭子 浜崎良治 森田忠志 赤川勉 朝倉正浩 高田睦夫 安村孝志 宮本保宏 鶴見隆志 山本稔 森下毅一(13名)

賛助会員(個人)：安田重雄 川添修 岩本善恵 牛久保亮一 小平和司 高橋修司 青柳志郎 迎尚子 岡島史祥 安達哲郎 前澤一雄 鈴木俊明 大墨宗重 長野啓 三田村喜己男 小島正勝 前園耕夫 林和馬 佐藤智哉 桑島義也 高橋美穂 田中俊美 渡邊牧子 六郷昌紀 平井和夫 竹川清和 江頭謙二 伊藤宏一 内崎千晴 水口雅恵(30名)

賛助会員(団体)：(株)ピース・イン・ツアー(八井麻由美) (株)アルテップ(荒川俊介)

(有)プラティ・アソシエイツ(深島一郎) 昭和(株)(高木長門) (株)都市開発リサーチ(菅野雅樹) (株)ヨシモトポール(柳澤匠)(6社)



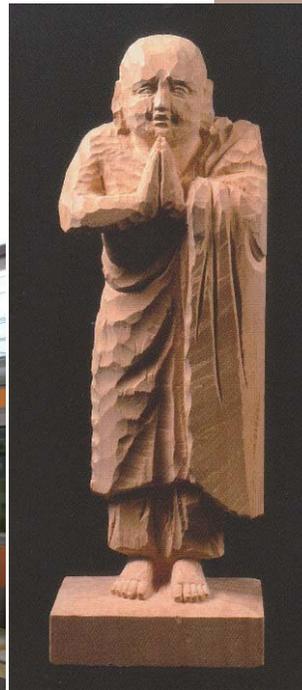
2015年8月13日 第3回 「ふるたんインタビュー」

天空の山と「祈りの造形」

彫刻のある街かど実験と宇津木台の竣工記念碑

「祈りの造形」西村公朝の時空を歩く

高尾山の天狗面像とパゴダのあるピクトリア山



大成浩さん・栄子さんご夫妻

「風」シリーズ



「風の地平線-蜃気楼」 魚津市



「風の塔」 八王子市



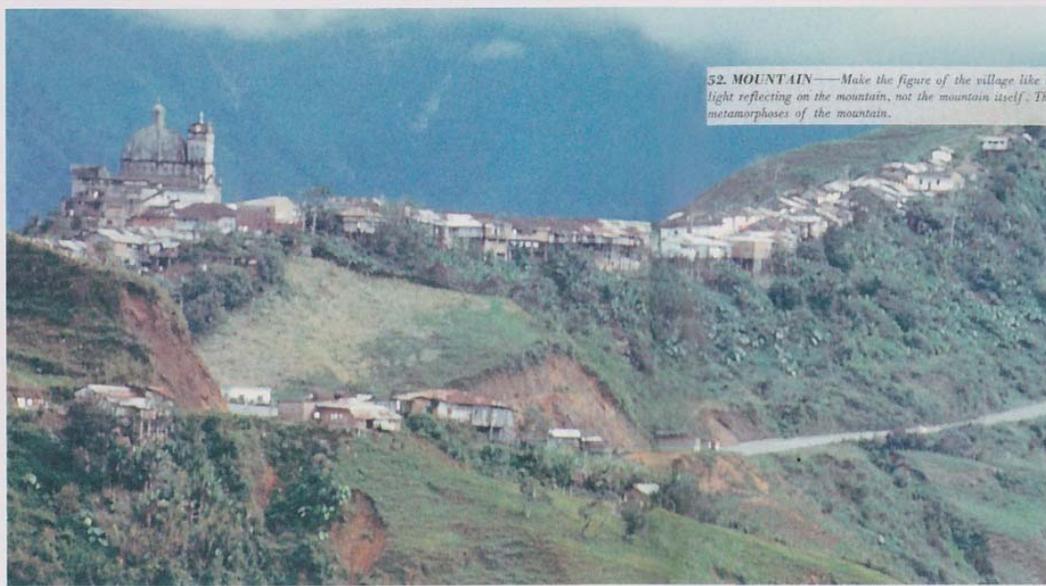
「陽風」 長野市



日本橋高島屋「石空間展」25周年記念会場にて

「集落の教え」

山の姿に似せて集落の姿をつくれ。山が見えるのではなくて、山に反射する光が見えるのだ。だから山の変容に注意しなくてはならない。



52. MOUNTAIN—Make the figure of the village like the figure of a mountain. We see the light reflecting on the mountain, not the mountain itself. Therefore you must pay attention to the metamorphoses of the mountain.

Valdivia (バルディビア) コロンビア→補註 20-m

【52】
山の姿に似せて集落の姿をつくれ。
山が見えるのではなくて、山に反射する光が見えるのだ。
だから、山の変容に注意しなくてはならない。

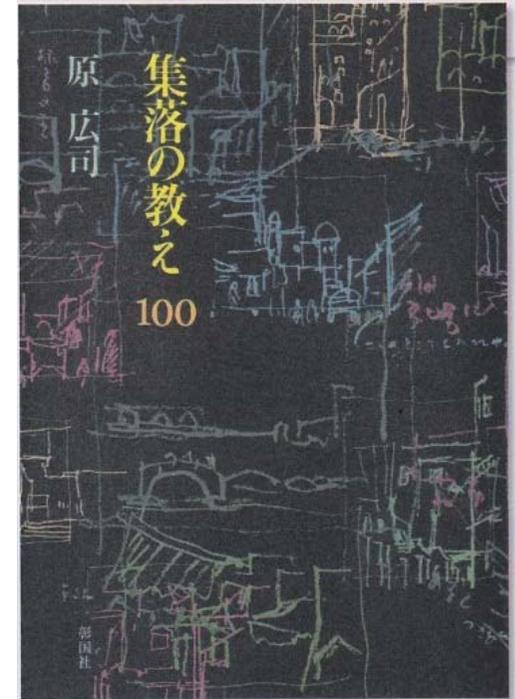
地形の最も日常的な把握として、山と谷がある。実際、小山あるいは丘の地形を領域として展開されている集落も少なくない。この場合、集落の全景が可視的になっているので、その集落の組立てがもつ意味もわかりやすくなる。集落の教えのひとつは、空間の組立て、構造がわかりやすく提示されるように集落や都市をつくる方法を考案することの示唆である。

もうひとつの教えは、集落は集団の諸活動の場、fieldである。この示唆である。場は、仮想の地形を誘起する。この仮想の地形を最も単純に捉える概念が、山なのである。たとえば、教会やモスクを丘の頂点に配した集落は、聖なる空間として仮想された地形と実際の地形とを一致させた事例である。それゆえ、集落の空間構造が、山の地形によって可視的になるのである。

地形は平坦で変化なくとも、たとえば脱穀のための風車を高く築いて並べれば、それは生産の集団活動の中心部であること、集落活動の仮想の地形の山のプレゼンテーションとなる。たとえばまた、(中南米の離散型集落)のように、休耕地に適当な距離をもって配置すれば、小さな山が住居を中心として仮想され、そうした小山が点在する仮想の地形が出現する。集落は単なる建築的な風景ではなく、場としての風景を私たちはそこに見るのである。つまり、集落の見え方は、フィジカルな見え方としてあるのではなく、さまざまな場のもつ意味をもった風景の見え方としてある。そして、見え方は、私たちそれぞれの観測者に依っている。

そして表現の活動の場の状態は、刻々と変化している。仮想の地形としての場、山や谷もまた生きていくのである。

写真は、コロンビアの稜線に沿って築かれた集落。【53】に示す谷間の集落と対になっている。



ふろたん通史
其の式

END

国土の均衡ある発展・限界集落はつくりたくない

「ふろたん通信」のバックナンバー・「ふろたんインタビュー」は、ふろんていあタウン工房のホームページをご覧ください。 <http://www.sun-net.cc/machidukuri/>